

令和元年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム ございしょの里 1号棟

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0371100413		
法人名	有限会社 古川商事		
事業所名	グループホーム ございしょの里 1号棟		
所在地	〒026-0301 岩手県釜石市鶴住居町第23地割21番地1		
自己評価作成日	令和元年12月15日	評価結果市町村受理日	令和2年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

活気あるグループホームを目指して、レクリエーションを取り入れたりと活動的に行なっております。又、他のユニットとの交流の場も増えてきています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajikensaku.mhw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan:true&JiyosyoCd=0371100413-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所はホテルを改装した2ユニットで運営され、東日本大震災津波では2階まで被災して避難生活を送ったが、1ヵ月後には改修して元の生活に戻っている。運営理念には”太陽の如く「あかるく、あたたかく、まるく」支援する”と掲げ、職員は利用者の傍に寄り添いあたたかい声を掛け、利用者に明るい笑顔が溢れる事業所となっている。また、庭先やベランダにミニトマトのプランター苗を置くことで、数人の利用者が自分の苗としてその世話を進んで行っており、水遣りのために外まで歩くことで身体を動かし、自ら収穫した実を他の利用者へあげることで会話が生まれ、自尊心を向上させることが出来ている。生活の中で利用者の心と体をさりげなく自然に動かす仕組みを上手く実践しており、今後は、更に多くの方にこのような支援を行うことが期待される事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年1月17日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

令和元年度

事業所名：グループホーム ございしょの里 1号棟

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員がミーティングで理念について話し合い実践につなげている。	開所時に創設者が掲げた基本理念を継承し、食堂に「運営の基本理念と方針」を掲示している。管理者は、暖かい気持ちを忘れないで日々の介護に取り組むよう、毎日のミーティングで職員へ伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々との山神様祭りに参加したり、鶴住居祭り 虎舞・手踊り・鹿踊りを見物したり林檎狩りしたり交流しております。	毎年4月29日に行われる山の神様祭りに4、5名の利用者が参加し、地域の方々との食事をしている。近所の方とは、野菜や魚の差し入れの際にも、親しく会話している。町内会に加入し、回覧板からも地域の情報を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所独自の取り組みはしていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではサービスの利用状況や行事実施報告を行い委員の皆様からアドバイスをいただいております。	利用者、家族代表、地区住民、元民生委員、消防団員、駐在所、地域包括支援センターを委員としている。ヒヤリハットの報告が人感センサーの使用に繋がり、地域交流の課題から放課後児童との連携を検討する取り組みが行われるなど、会議での意見・提言等が運営に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員に行政職員がおり色々相談して協力関係を築いております。	市担当課とは、最近入居した方の状況報告や新規受入れ等について連絡を取り合っている。生活保護担当職員や認定調査員が来所した際には、利用者の状況等について報告等を行っている。制度等についての照会があれば、電話で担当課と連絡を取れる関係が出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は、必ず職員が利用者の見守りを行っており居室や玄関に鍵をかけていない。夜間のみ安全確保の為、施錠しています。	代表者を含め全職員が身体拘束廃止委員会のメンバーとなり、3ヵ月毎に夕方6時から委員会を開催している。内部研修で身体拘束をテーマとして取り上げ、昨年度はスピーチロックを題材とし、今年度も引き続き研修予定としている。転倒を繰り返す方への対応として、センサーマットやドアブザーの設置、ベッド柵に鈴をつける等により、行動を抑制することなく対応できるよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	詳しく学ぶ機会がもてないのが現状です。年に1度ではありますが内部研修を行い虐待はあってはならない指導をしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所で地域福祉権威養護を利用されている方はいません。全スタッフが専門的な外部研修を受けていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に契約の締結や解約は理解や納得が得られるよう説明を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「投書箱」を設置しております。苦情や要望はありませんが担当スタッフが敏速に対応するようにしております。	家族が面会や通院の介助で来所した際に要望等を伺っている。今年度1件あった投書箱へのご意見には管理者が対応、状況の説明を行っている。運営推進会議に利用者と家族代表が参加し、意見・要望を話しやすい環境を作っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで職員より提案され、ミキサ(料理を作る為)・一輪車[花の寄せ植肥料運搬する為)を購入する。	管理者も参加するミーティングの際に、職員から意見や要望が出されることが多い。レクリエーション道具や食事作りのためのミキサー購入の提案が職員からあり、管理者を通して代表者へ伝え具体化されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受講している。 内部研修を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の定例会に参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	心身の状況を把握し本人が安心して過ごせるよう声掛け・傾聴に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用を希望される後家族からも意向を伺うように努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族の希望をききADLの状態を把握し必要とする支援を知るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者、職員の楽しみ事を一緒に楽しむように心がけております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月発行する公報やお便りで共に利用者を支えていく関係を築いている。また通院や外出など御家族の役割も担って頂き利用共に支えるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の希望があれば随時対応していきたい。	入居時のアセスメントで近所付き合いや慣れ親しんだ近所のお店を把握し、買い物に出かけたり、通院の帰りに買い物に立ち寄っている。お盆には、家族と一緒にお墓参りに出かける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で助け合ったり支え合ったりすることが出来るような支援を日常行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後、継続的な関わりを必要希望される方はいませんが、今後継続的な関わりを必要とする利用者や家族がおりましたら対応していきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の話を傾聴し、希望や意向の把握に努めている。	夕食後のゆったりとした時間に利用者の隣に座り、話の中から意向や希望の把握に努め、食べ物等の要望を汲み取っている。入居時のアセスメントや3か月に1回のプラン見直し時は、家族・利用者から定期的に意見・要望を聴く機会ともしている。言葉で表現できない方には、本人をよく知る家族から話を伺っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に家族から話を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や生活記録、申し送りノートに記録し、引継ぎ時、口頭で状況報告を申し送る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、家族本人の希望や意見を取り入れ作成している。	職員は家族・利用者から意見・要望を聴き取り、計画作成担当者は毎月の会議で職員から支援状況を把握している。プランの見直しは、その積み重ねを基礎に3か月に1回行い、計画作成担当者が原案を作成し、ミーティングで職員との協議を経て成案とし、家族へ説明している。1人の利用者に3人の居室担当がつき、状態変化があった場合には、ミーティングでケアの統一を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、介護記録、申し送りノートに記録し、引継ぎ時、口頭で状況報告の上で申し送る。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホーム内でのデイサービス・ショートステイは実施していない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の希望のかかりつけ医を受診しています。基本的には家族同行をお願いしていますが、緊急時には家族の希望を優先させ職員が同行支援することがある。	家族による同行受診を原則としているが、同行できない場合は同意を得て在宅診療に変更している。入居前のかかりつけ医を受診している利用者は、半数程度となっている。家族介助による受診時にはバイタルチェック表を託し、受診結果は家族から即日確認している。歯科医師による訪問診療も受診することが出来る。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がいないので、バイタル測定し日頃と変わった時は、すぐに病院受診しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院が必要になった時は、その利用者の経過記録を報告する事や普段の様(介護サマリー)を詳しく伝えるようにしている。早期退院計画はしていない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医常時は、かかりつけ医に連絡受診し医師の判断をあおぐようにしている。	経口摂取できず経管栄養の状態になることを事業所では対応できる重度化の基準としている。家族の要望により看取りを行い、昨年は1人の利用者を看取っている。看護師資格者がいないため在宅診療の医師による判断・指示を仰ぎ看取りを行っている。	これまで6人の利用者の看取りを、在宅診療医師の協力を得ながら介護職員で行っている。職員に関し、今後は介護の質の向上に向けた看取り研修の開催及び心のサポート体制の構築を進めることが期待される。また、看取りに対する職員の負担軽減から、他の機関等に属する看護師からの助力・支援等について検討することが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり、職員がいつでも観覧できる場所に置いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、年2回行なっている。	火災想定避難訓練を年2回(3月は消防署、9月は消防団立会い)実施し、緊急連絡網も整備している。2階からの避難誘導は、マットを使用し職員4人で階段から下ろし、1階からは車いすで玄関先まで移動する訓練を行っている。訓練には地区の消防団員3名も参加している。	2ユニットで15人が2階の居室であり、夜間の火災発生に備え、近隣に火災を知らせ地域の協力を得られるようにする取組もと、地震津波想定での避難訓練を実施することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや誇りに配慮し、普段から言葉使いに気をつけている。言葉使いや対応については職員間で声を掛け合って治すように取り組んでいます。内部研修も行なっている。	トイレ誘導時の言葉を不快に感じる利用者には配慮し、小声で身振り手振りを併せた誘導に取り組んでいる。「ダメでしょう」など指示・禁止と受け止められる言葉遣いには、管理者が職員へ注意し、研修会で学ぶ機会も設けている。	転倒や内鍵による危険防止のためトイレドアを開け、施錠できない状態とし、常に見守りできる体制を取っている。今後は、転倒等のリスク管理の方法が、本人のプライバシーを侵害していないか、他の適切な方法はないかなどについて、検討する場を設けることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とゆっくり話しをしている。服装・食事等で利用者に対して見守りの中で自由にさせて支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望が実現できるように意向を伺っていますが全ての希望に答えられないこともあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者に任せている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望に任せている。	職員は、利用者の要望を聞き1ヵ月分の献立を作成し、食材の購入も行っている。1号館は日勤職員が食堂で調理し、利用者は下ごしらえやテーブル拭きを行い、2号館は調理担当が食堂で料理から配膳・下膳まで行っている。ひな祭りにはちらし寿司、節分には恵方巻と、行事に併せて季節を感じる食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	身体状況や咀嚼能力に応じた献立に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけ誘導で行なってます。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	番・尿の回数チェックを行なっています。声掛けで良い方、見守りが必要な方積極的関わりが必要な方それに合わせた排泄対策を行なっている。	2～3時間に1回の早めの声掛け誘導により、リハビリパンツから布パンツへ、尿取りパッドの交換回数減となった利用者がそれぞれ1名いる。利用者の行動観察を行うことによりトイレサインのパターンを推測し、早めの声掛け誘導でトイレでの排泄支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無の把握に努めている。飲食物の工夫や運動の働きかけも行なっている。1人1人の状態で薬を使用するなどしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には、入居者の自由に希望がない時は、3日に1回にしています。入浴中は、楽しく気持ちよく過ごして頂けるように会話を多く発言を引き出せる様に心掛けている。	入浴は3日に1回9時～11時とし、1号館は個浴、2号館は大型浴槽となっている。柚子の香りや草津の湯の入浴剤を使用し、入浴を敬遠する利用者には「今日のお風呂は柚子で気持ちいいよ」と声掛けし入浴を促している。入浴中の利用者へ職員から話しかけ、気持ち良く入浴できるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居時、使い慣れている物を持ち込んで頂いております。又、昼寝や就寝時間は利用者に任せている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示通り服薬を実行(ホームで管理注意をはらっている)服薬リストを介護日誌にセットし職員船員が目をとおす様支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	休憩室で新聞紙をたたんだり、塗り絵をしたり歌を唄う利用者、それぞれ好きな事をしていただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、バスハイクに出かけたりしています。(釜石大観音、紅葉狩り、林檎狩り等)	9人乗りのデイサービス車両を含めた2台の車を利用し、山の神様祭り、釜石大観音、紅葉狩りやリンゴ狩りなど、季節のドライブに出掛けている。1号館はベランダに、2号館は庭先にプランターを置いてミニトマトなどを育て、利用者が生育から収穫までを担い、自然に外へ出るよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の預かり金は、施設で管理している。入居者が希望する時は、職員が同行するなど対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に手紙をだしたりという入居者はおりませんが家族に電話をかけたいと言う入居者には職員がついて支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整形第一に考え、快適に過ごしていただける様季節ごとの飾りを作ったり楽しんでいただいております。	1号館、2号館ともに季節の飾りつけにより、季節感を視覚的に味わうことができ、利用者の作品も飾られ、明るい雰囲気となっている。エアコン・加湿器・温風ヒーターにより快適な温度、湿度が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂及び談話室は、椅子を置いて思い思いに過ごす場所は確保できています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は、今まで使用していた物を出来る限り使用するよう進め、利用者の好みに任せています。	居室にはカーテン、ソファが備え付けられ、2部屋がトイレ付きの部屋となっている。テレビ、筆筒、位牌、写真などを持ち込んでいる利用者もいる。利用者お手製の作品も飾られ、利用者ごとに好みのお部屋の雰囲気づくりがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、階段、トイレなど全て歩行できる場所は、手すりを設置しています。		